

留学先：Clemson University

氏名： 黒川晶平

【はじめに】

12月に入り、今年も残すところあと少しとなりました。こちらは冬とは思えないほど暖かく、快晴が続き、半袖で過ごせる日もあるほどです。クレムソンに来て4か月、あっという間に秋学期が終わってしまい冬休みに突入したところですが、しっかり振り返りを行って来年に備えたいと思います。

【Thanksgiving Break】



11月25日から5日間、サンクスギビング（感謝祭）といわれる祝日のための休暇がありました。僕を含む7人の交換留学生在がアメリカ人の友人の実家に招待され、クレムソンから車で4時間ほどいったところにあるチャールストンで休暇を過ごしました。この連休中に嬉しかったのは、友人の家族に振る舞っていただいた家庭料理をたくさん味わうことができたことです。この感謝祭では伝統的に七面鳥を家族で食べる習慣があり、実際に僕たちも様々な料理とともに食べることができました。大学のダイニングホールでの料理を食べ飽きた学生たちにとっては、米国の母の手料理はこの上ない幸せでした。その他にも、町が海に近く海産物がおいしいとのことで岩牡蠣をみんなで食べたり、夜のダウンタウンに出かけバーでお酒を飲んだり、食事に関しては大満足でした。休暇独特の雰囲気の中で、アメリカ人の家族と各国から来ている友人たち、合わせて10人を越える人たちと団らんしたひとは本当に素晴らしかったです。

また、休暇中に一度家庭を離れてキャンプにも行きました。キャンプ地は森の奥深くにあり、道中にどこまでも続くような林道や突然現れる鹿や七面鳥などを見て、アメリカの自然の雄大さを感じました。森の中にある大きな沼の岸边にテントを張り、付近の小屋にあったカヤックを借りてみんなで沼を探検しました。この体験が何よりも感動的でした。特に明け方、鳥の声を聴きながら朝日が反射する美しい水面をゆっくり漕いで進んだ時間は、日本ではなかなか得ることのできないものであり、一生忘れられない思い出になるでしょう。アメリカに来て以来一番美しい時間だったと、招待された友人たちが皆興奮しながら語っていたのが印象的でした。

【今学期を終えて】



感謝祭の休みが明けると学期も残すところ 2 週間となり、クラスも期末課題や試験などで格段に忙しくなりました。休暇中に学校を離れて思う存分楽しんだ分、毎日睡眠時間を削ってまで課題をこなすことになり、非常につらい思いをしながら生活していました。僕のクラスでは試験よりも期末ペーパーが多く、毎日圧倒される気分でした。試験に関しても、こちらの試験時間は長いもので 3 時間以上になるなど過酷であり、必死の思いをしてなんとか学期を終えることができました。

今学期を終えて率直に感じるのは、自分の英語力がどう変わったかというよりも、自分自身や自国の文化を客観的に見るようになったということです。日本を離れて外国で生活している以上当たり前のことかもしれませんが、コミュニケーションの壁や文化の違いに直面した時に、なぜ自分はこう考えたのか、日本人ならどう対応していたのかなどと試行錯誤しながら考えるようになりました。寮での共同生活や、TA をしていた日本語のクラス、そして何より国際色豊かな友人たちが自分の言動や文化を振り返る機会を豊富に与えてくれていたように感じます。ヨーロッパ各国から来ている交換留学生の多くは秋学期のみで帰国してしまうため、別れを告げるのはとてもさみしかったのですが、今後も連絡をとってまた色んな意見交換を行いたいと思います。

この 4 か月の間に、何度も自分は恵まれていることを自覚しました。素晴らしい友人に囲まれて楽しく過ごした日々、毎回自分を感化させてくれる授業、ここでしか味わえない生活など、挙げればきりが無いほど貴重な体験できました。本当に濃い時間を過ごしていますが、まだまだ満足するわけにはいきません。実際に英語能力はもちろん、もっと自分の教養の幅を増やしたいと考えていますし、高いお金を払って留学しているなら常に貪欲に学ぶ必要があると思います。この環境に身を置くことができていることに感謝しつつ、来学期も吸収できるものは全部自分のものにするつもりで臨みます。

今回は冬休み中の旅行の話を中心に報告しようと思います。それではよいお年を！